

研究主題 「新しい時代に生きる力を育む視聴覚(情報・ICT)教育の追究」 ～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業デザインを通して～

I 団体の概要

- 戦前の映画教育運動を継承し、戦後は東京都視聴覚教育研究会(略称「都視研」)として、半世紀にわたり、都内の幼稚園、小学校及び中学校における視聴覚教育の普及発展に貢献してきた。都内唯一、最大に学校教育研究組織を受け継ぐものである。
- 昭和 46 年6月 19 日に、学校種別に、いっそう集中的、効果的な活動をすすめるために、都視研を解体して、幼・小・中学校ごとの組織とし、小学校においては「東京都小学校視聴覚教育研究会」(略称「都小視研」)を結成し、今日に至っている。
- 都内すべての区郡市ごとの小学校視聴覚教育研究団体等によって構成し、都内全小学校に加盟していただいている。
- 都内の現場の先生方による実践・研究組織として自主的に運営している。

II 研究主題設定の理由

小学校学習指導要領(平成 29 年告示、令和2年度実施)では、「情報活用能力」が学習の基盤となる資質・能力として言語能力、問題発見・問題解決能力等と同等に位置付けられた。また、情報活用能力は、情報活用の実践力、情報の科学的理解、情報モラルの3つとされているが、総則では「情報活用能力(情報モラルを含む)」と書かれている。さらに小学校においてもプログラミング的思考を体験的に育成することが明記され、小学校教育が大きく変革する内容となっている。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、国が「GIGA スクール構想」の前倒しを図り、各自治体では一人一台のタブレット端末配当が実現した。ICT などの視聴覚的手法の活用による「学び」の転換が求められ、新たに「令和の日本型学校教育の構築に向けて」(令和3年3月)が示された。これらのことを受け、新たに第 14 次研究主題を策定し、研究を進めることとした。



III 研究のねらい

「学習指導要領」、「GIGA スクール構想」、「令和の日本型学校教育の構築に向けて」の内容を加え、「授業デザイン」と「カリキュラム・マネジメント」の2つの柱に整理して、以下のように設定した。

○ 望まれる子供像に向けて、各教科等の特性を踏まえ、ICT 等を活用した授業デザインを工夫する

- ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するための授業デザイン
- ・課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むための授業デザイン
- ・主体的に学習に取り組む態度を養うための授業デザイン
- ・言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育むための授業デザイン
- ・体験を通して、プログラミング的思考を培うための授業デザイン
- ・豊かな創造性を備え、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育むための授業デザイン

○ 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に設定し、カリキュラム・マネジメントを工夫する

IV 研究の内容

「一斉学習」「個別学習」「協働学習」という3つの学習形態と、授業展開の過程に家庭学習や感染症・不登校対策などで登校できない場合を含む校外での活用も加え、マトリクスにした「ICT 活用モデル」を構築した。児童がどういった場面で ICT などの視聴覚的手法を使い、ねらいを達成するのか…という視点で授業をデザインし、実践を通して学びの深化、学びの転換を図る。



V 研究の構想 (第14次)

<子供を取り巻く社会背景>

- ・先端技術が高度化し、産業や社会生活に取り入れられた Society5.0 の到来
- ・感染症拡大等、予測困難な時代
- ・SDGs 等世界規模の諸課題への対応
- ・グローバル化、少子高齢化、都市化や過疎化、多様性の尊重
- ・安全、防災への取組
- ・自然や人とのかかわりの希薄化

<望まれる子供像-育てたい資質・能力>

- ・基礎的・基本的な知識及び技能とこれらを活用し、課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等
- ・主体的に学習に取り組む態度
- ・言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力
- ・プログラミング的思考
- ・豊かな創造性を備え、持続可能な社会づくりにつなげていく力

<法規・法令等>

- ・日本国憲法、教育基本法、学校教育法、学校教育法施行規則

<学習指導要領>

- ・新しい時代に必要となる資質・能力の育成
- ・社会に開かれた教育課程の実現
- ・主体的・対話的で深い学びに向けた授業改善

<東京都の教育目標・主要施策>

<令和の日本型学校教育>

<GIGA スクール構想>

研究主題(第14次)

「新しい時代に生きる力を育む視聴覚(情報・ICT)教育の追究」
～個別最適な学びと協働的な学びの充実に向けた授業デザインを通して～

研究のねらい

- 各教科等の特性を生かし、望まれる子供像に向けて、ICT等を活用した授業デザインを工夫する。
 - ・基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得するための授業デザイン
 - ・課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等を育むための授業デザイン
 - ・主体的に学習に取り組む態度を養うための授業デザイン
 - ・言語能力、情報活用能力(情報モラルを含む)、問題発見・解決能力等の学習の基盤となる資質・能力を育むための授業デザイン
 - ・体験を通して、プログラミング的思考を培うための授業デザイン
 - ・豊かな創造性を備え、持続可能な社会づくりにつなげていく力を育むための授業デザイン
- 個別最適な学びと協働的な学びを効果的に設定し、カリキュラム・マネジメントを充実させる。

研究の内容・方法

基礎的・基本的な知識及び技能

主体的に学習に取り組む態度

問題解決能力(思考力 判断力 表現力)

個性を生かし、多様な人との協働を通して総合的に育む

ICT(視聴覚的手法)を活用した授業デザインとカリキュラム・マネジメントの工夫

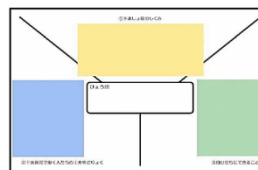
個別最適な学び

協働的な学び

都小視研の視点(評価規準) 授業提案ごとに設定する。(育てたい資質・能力を選択する。)

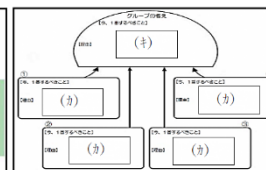
VI 研究実践より

①第4学年社会科『住みよいくらしをつくる』ロイロノート、思考ツールの活用



(右)クラゲチャート…

それぞれの考えを足の部分(カ)に表し、頭の部分に話し合ったこと(キ)をまとめる。



(左)Yチャート…

児童が学習したことを、3つの視点で分かりやすく整理させる。中央には学んだことを生かして考えた標語を入力。



②第2学年学級活動『つたえよう！自分の気持ち』デジタルシティズンシップ教育



禁止事項(ルール)を決めて守る態度を育てる情報モラル指導から、ネット社会を主体的に生きる態度を育てる「デジタルシティズンシップ教育」(ブレーキを踏むのではなく、上手にアクセルを踏みながらネット社会を進んでいくという考え方)の指導にチャレンジ。GIGA ワークブックとうきょうを活用し、児童がタブレット上で選択肢を操作して Google Spreadsheet に意見を入力、Google Form で振り返りをしました。

| | | | |
|----------|------|---|--------|
| 団体名 | | 東京都小学校視聴覚教育研究会 | |
| 代表者 | 所属 | 中野区立鷺の杜小学校 | |
| | 職 氏名 | 校長 武智 直貴 | |
| | 連絡先 | 03-5364-7135 | |
| 事務局 | 所属 | 練馬区立立野小学校 | |
| | 職 氏名 | 校長 幅 健司 | |
| | 連絡先 | 03-3929-0020 | |
| 団体ホームページ | | URL | 二次元コード |
| | | https://teav.sakura.ne.jp/ | |